

業務システムにおけるサーバ接続ストレージ、ファイルサーバ、オンラインストレージサービスの動向を全て網羅

2015年版 中堅・中小企業におけるストレージ環境の実態と展望レポート案内

本ドキュメントは「調査対象」「設問項目」および「試読版」を掲載した調査レポートご紹介資料です。

調査対象ユーザ企業属性:	「どんな規模や業種の企業が対象かを知りたい」⇒	1ページ
設問項目:	「どんな内容を尋ねた調査結果なのかを知りたい」⇒	2～7ページ
本レポートの試読版:	「調査レポートの内容を試読みしてみたい」⇒	8～11ページ

[調査レポートで得られるメリット]

1. 年商/業種/従業員数/地域といった様々な観点で市場動向を把握することができます。
2. 収録されているデータをカタログや販促資料などに引用/転載いただくことができます。

調査対象ユーザ企業属性

有効サンプル数: 536社(有効回答件数)

年商区分: 5億円未満 / 5億円以上～50億円未満 / 50億円以上～100億円未満 / 100億円以上～300億円未満 / 300億円以上～500億円未満

職責区分: 以下のいずれかの職責を持ち、ストレージの導入/管理における意思決定または実作業に関わる社員

- ・企業の経営に関わる立場であり、IT関連投資の決裁を下す立場
- ・企業の経営に関わる立場であるが、IT関連投資の決裁には直接関わらない立場
- ・ITの導入/選定/運用作業に関わり、社内の経営層に対する提案も行う立場
- ・ITの導入/選定/運用作業に関わるが、社内の経営層に対する提案は行わない立場

従業員数区分: 20人未満 / 20人以上～50人未満 / 50人以上～100人未満 / 100人以上～300人未満 / 300人以上～500人未満 / 500人以上～1000人未満 / 1000人以上～3000人未満 / 3000人以上～5000人未満 / 5000人以上

業種区分: 組立製造業 / 加工製造業 / 流通業(運輸業) / 建設業 / 卸売業 / 小売業 / IT関連サービス業 / サービス業(IT以外) / その他

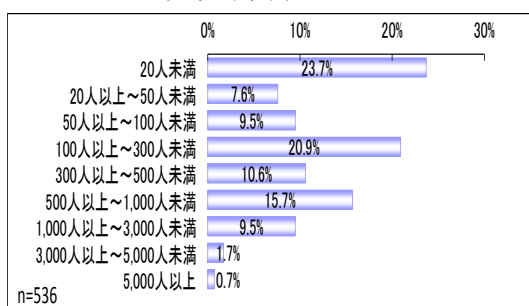
所在区分: 北海道地方 / 東北地方 / 関東地方 / 北陸地方 / 中部地方 / 近畿地方 / 中国地方 / 四国地方 / 九州・沖縄地方

IT管理人員体制区分: IT管理/運用を担当する社員は兼任と専任のいずれか、それぞれの場合の人員数はどれくらいか? (兼任/専任の区分および1名/2～5名/6～9名/10名以上の人員数区分にて尋ねている)

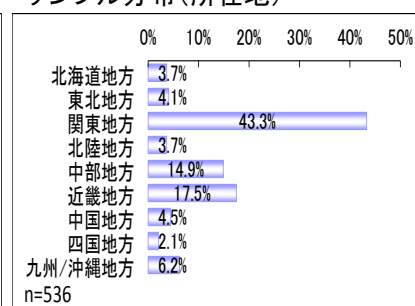
ビジネス拠点状況区分: オフィス/営業所/工場などの拠点がいくつあるか、拠点におけるIT管理/運用の状況はどうなっているか? (1ヶ所/2～5ヶ所/6ヶ所の拠点数区分および「拠点毎の個別管理」「全拠点を統一管理」の管理状況区分にて尋ねている)

調査実施時期: 2015年4月

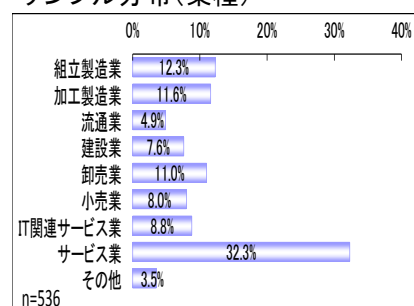
サンプル分布(従業員数)



サンプル分布(所在地)



サンプル分布(業種)



設問項目(1/6)

本調査レポートにおける設問項目は以下の通りである。特に記載がない限り、いずれもあらかじめ用意された選択肢から回答を選ぶ選択式設問となる(「いくつかも」と記載がある場合は複数回答設問、そうでない場合は単一回答設問である。

【D1系列】

「D1-*」という番号を持つ設問では新規導入または刷新/更新するサーバに接続するストレージ機器について尋ねている。

D1-1.新規導入または刷新/更新するサーバに接続するストレージ機器(いくつかも)

新たに導入または刷新/更新するサーバと接続するストレージ機器があるかどうか? ある場合にはどのような形態のストレージ機器であるか?を尋ねる設問である。以下の選択肢が示すように様々なストレージ機器形態を網羅している。

- ・DAS接続の専用ストレージ機器(サーバH/Wと直接接続する形態)
- ・共有SAS接続の専用ストレージ機器(複数のブレードサーバでストレージを共有する形態など)
- ・NAS用途としての専用ストレージ機器(LAN経由で複数のサーバやPCからファイルの読み書きができるもの)
- ・PCサーバをベースとしたファイルサーバ(Windows Storage ServerをOSとして搭載したPCサーバなど)
- ・IP-SAN接続の専用ストレージ機器(iSCSI、FCoEなどIPネットワークでサーバと接続する形態)
- ・FC-SAN接続の専用ストレージ機器(ファイバーチャネルネットワークでサーバと接続する形態)
- ・統合ストレージ機器(SANとNASを同時にサポートするもの)
- ・NASゲートウェイ(SAN接続の専用ストレージ機器をNASとして利用可能にするもの)
- ・ストレージ仮想化装置(複数のストレージ機器を束ねて一体化するもの)
- ・LAN接続可能な外付けハードディスク(「NAD用途としての専用ストレージ機器」よりも安価で簡易なもの)
- ・USB/SCSI/SATA/IEEE1394接続の外付けハードディスク(特定のサーバやPCと1対1で接続する外付けディスク)

D1-2.新規導入または刷新/更新する予定の最も重要度の高いストレージ機器

設問[D1-1]で選択したもののうち、最も重要度の高いものを1つ選ぶ設問である。以降のD1系列の設問ではここで回答したストレージ機器についての詳細を尋ねている。

D1-3.最も重要度の高いストレージ機器の用途(いくつかも)

設問[D1-2]で選択したストレージ機器の用途を尋ねる設問である。選択肢中の用語に関する説明は以下の通りとなる。

業務システムデータ:	会計、販売、人事/給与、グループウェア、CRMなどといった業務システム固有のデータ
文書ファイルデータ:	Microsoft Excel/Word/Powerpoint、PDFなどといったPCで読み書きする文書やファイル
プライマリストレージ:	日々の業務の中で読み書きを行う対象となるデータが格納されたストレージ機器
バックアップストレージ:	障害発生時などに備えてバックアップしたデータを格納しておくストレージ機器

上記を踏まえた上での選択肢は以下の通りとなる。

- ・業務システムデータのプライマリストレージ
- ・業務システムデータのバックアップストレージ
- ・文書ファイルデータのプライマリストレージ
- ・文書ファイルデータのバックアップストレージ
- ・仮想化されたサーバ環境の保存先

D1-4.最も重要度の高いストレージ機器のメーカー

設問[D1-2]で選択したストレージ機器のメーカーを尋ねる設問である。選択肢は以下の通りとなる。

- ・NEC
- ・富士通
- ・レノボ(LESを含む)
- ・日本HP
- ・デル
- ・日立製作所
- ・東芝
- ・日本オラクル
- ・EMCジャパン
- ・ネットアップ
- ・バッファロー
- ・アイ・オー・データ
- ・エレコム(ロジテック、Lacie)
- ・その他

D1-5.最も重要度の高いストレージ機器の合計ディスク容量

設問[D1-2]で選択したストレージ機器のディスク容量を尋ねる設問である。ここでの『合計ディスク容量』は実際の使用量ではなく、搭載されているディスクの物理的な合計容量を尋ねている。

D1-6.最も重要度の高いストレージ機器において実際に活用している機能や特徴(いくつでも)

設問[D1-2]で選択したストレージ機器において活用している機能や特徴を尋ねる設問である。選択肢は以下の通りとなる。(実際の調査レポートには各選択肢の内容に関する詳しい説明も記載されている)

- ・データのレプリケーション
- ・システムのレプリケーション
- ・プライマリデータの圧縮/重複排除
- ・バックアップデータの圧縮/重複排除
- ・フラッシュメモリのキャッシュ利用(ストレージ側)
- ・フラッシュメモリのキャッシュ利用(サーバ側)
- ・オールフラッシュストレージ
- ・クラウドサービスへのデータ移動
- ・クラウドサービスへのバックアップ
- ・サーバ仮想化環境との親和性
- ・アプリケーションとの親和性
- ・シンプロビジョニング
- ・ストレージ仮想化
- ・異種ディスク混在RAID
- ・ホットスワップ/ホットアド
- ・階層化ストレージ
- ・スナップショット
- ・マルチパス対応
- ・その他

D1-7.最も重要度の高いストレージ機器において今後新たに活用したい機能や特徴(いくつでも)

設問[D1-2]で選択したストレージ機器において今後新たに活用したいと考えている機能や特徴を尋ねる設問である。選択肢は設問[D1-6]と同様であり、設問[D1-6]で選択しなかった項目のみが設問[D1-7]での回答対象選択肢となる。

【D2系列】

「D2-*」という番号を持つ設問ではファイルサーバの導入や管理について尋ねている。

D2-1.ファイルサーバの利用状況(いくつでも)

ファイルサーバを利用しているか?利用している場合の形態は何か?を尋ねる設問である。選択肢は以下の通りとなる。

- ・一般のPCサーバをファイルサーバ用途として利用
- ・PCサーバをベースとしたファイルサーバ専用機
- ・ストレージ機器によるファイルサーバ専用機
- ・特定のPCをファイルサーバ用途として利用
- ・LAN接続可能な外付けハードディスク
- ・その他
- ・ファイルサーバは全く利用していない

D2-2.ファイルサーバ利用における課題(いくつでも)

ファイルサーバを利用する上で直面している課題を尋ねる設問である。

管理/運用に関する項目(アクセス権の設定が煩雑、各PCにライセンス費用が必要、ファイルサーバが社内に乱立している、ディスク容量を拡張/増設できないなど)、機能に関する項目(ファイルの所在がわからない、ファイルの中身を検索できない、ファイルの読み書きが遅い、ファイルのバージョン管理ができないなど)、社外での利用に関連する項目(スマートデバイスからファイルを参照または作成/編集できない、社員以外に一時的にアクセスを許可できないなど)といった20項目におよぶ様々な観点からの選択肢を網羅している。

D2-3.ファイルサーバの新規導入や更新につながるニーズ(いくつでも)

「この機能や特徴を備えたファイルサーバがあれば、新規導入や更新をしても良い」と考えられる項目は何か？を尋ねた設問である。選択肢は以下の通りとなる。(実際の調査レポートには各選択肢の内容に関する詳しい説明も記載されている)

<<管理/運用や機能に関する項目>>

- ・アクセス権管理機能
- ・文書自動変換機能
- ・バージョン管理機能
- ・ファイル照合機能
- ・タスク管理機能
- ・全文検索機能
- ・更新通知機能
- ・データ移行機能

<<容量や性能に関する項目>>

- ・ディスク容量の増設
- ・アクセス性能の強化
- ・クラウド連携機能
- ・データ圧縮機能

<<バックアップなどに関する項目>>

- ・クラウドバックアップ機能
- ・レプリケーション機能
- ・PCバックアップ機能

<<社外での利用などに関する項目>>

- ・リモートアクセス機能
- ・スマートデバイス対応
- ・Webブラウザ編集機能
- ・ゲストアクセス機能

D2-4.ファイルサーバ1台あたりに拠出可能な導入費用(単位:万円)

設問[D2-3]のニーズを全て満たしたファイルサーバがあった場合、そのファイルサーバ1台あたりに対して拠出可能な導入費用を尋ねる数値記入式の設問である。ここでの『導入費用』には以下の3点が含まれる。

- *ファイルサーバのハードウェア費用
- *望ましい機能や特徴を満たすために必要なOSやツールの費用
- *アクセス権設定などの初期作業を社外に依頼する場合、それに必要な作業費用

【D3系列】

「D3-*」という番号を持つ設問ではオンラインストレージサービスの活用状況について尋ねている。

D3-1.既に活用中のオンラインストレージサービス(いくつでも)

既に活用中(導入済み)のオンラインストレージサービスを具体的に尋ねる設問である。ここでは企業で正式に認められた利用に加えて、社員が個人的に業務目的で利用しているケースも含む。(社員が自宅などで個人として利用している場合は除く) 本レポートにおける「オンラインストレージサービス」とは、ストレージ機器を導入することなく、クラウド事業者が構築/運用するストレージ環境をユーザ企業がインターネットを介して月額/年額のサービスとして利用する形態を指す。さらに、本レポートではオンラインストレージサービスを大きく以下の二つに分類している。

- ・ファイルサーバ型:
社内に設置されたファイルサーバと同じように各PCからアクセスしてファイルの参照/編集を行うもの。
- ・ストレージ基盤型:
業務システムなどとAPIを介して接続し、データの格納場所やバックアップ先として活用するもの。

上記を踏まえた上での[D3-1]の選択肢は以下の通りとなる。

<<ファイルサーバ型>>

- | | |
|--|-----------|
| ・Dropbox for Business: | Dropbox |
| ・GoogleDrive for Work: | グーグル |
| ・Office365 /Sharepoint Online: | 日本マイクロソフト |
| ・OneDrive for Business(旧: SkyDrive Pro): | 日本マイクロソフト |
| ・Box: | Box |

次頁へ続く

設問項目(4/6)

<<ファイルサーバ型>> [D3-1]の選択肢の続き

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ・SugarSync: | BBソフトサービス |
| ・フレッツ・あずけ～るPROプラン: | NTT東日本 |
| ・Bizストレージファイルシェア: | NTTコミュニケーションズ |
| ・KDDIファイルストレージ: | KDDI |
| ・Yahoo!クラウドストレージ: | ヤフー |
| ・PrimeDrive: | ソフトバンクテレコム |
| ・SecureDrive: | フュージョン・コミュニケーションズ |
| ・たよれーる どこでもキャビネット: | 大塚商会 |
| ・クラウドファイルサーバー: | 富士通 |
| ・AZCLOUD ファイルサーバ: | 富士通マーケティング |
| ・BIGLOBEクラウドストレージ: | ビッグロブ |
| ・Citrix ShareFile: | シトリックスシステムズ |
| ・InternetDisk ASP: | ジャストシステム |
| ・その他のファイルサーバ型サービス | |

<<ストレージ基盤型>>

- | | |
|-------------------------------------|-----------------|
| ・Amazon S3: | アマゾンデータサービスジャパン |
| ・Google Cloud Storage: | グーグル |
| ・Microsoft Azure Storage: | 日本マイクロソフト |
| ・ニフティクラウドストレージ: | ニフティ |
| ・cloud [®] Object Storage: | NTTコミュニケーションズ |
| ・その他のストレージ基盤型サービス | |

<<その他>>

- ・その他のオンラインストレージサービス
- ・オンラインストレージサービスは全く活用していない

D3-2.ストレージ基盤型サービスの活用状況(いくつでも)

既に活用中のオンラインストレージサービスのうち、ストレージ基盤型サービスの詳細な活用状況を尋ねた設問である。選択肢中の用語に関する説明は以下の通りである。

- | | |
|--------------|---|
| 業務システムデータ: | 会計、販売、人事/給与、グループウェア、CRMなどといった業務システム固有のデータ |
| 文書ファイルデータ: | Microsoft Excel/Word/Powerpoint、PDFなどといったPCで読み書きする文書やファイル |
| プライマリストレージ: | 日々の業務の中で読み書きを行う対象となるデータを格納するもの |
| バックアップストレージ: | 障害発生時などに備えてバックアップしたデータを格納するもの |
| アーカイブストレージ: | 履歴を残し、必要に応じて後から参照する目的でデータを保管するもの |

上記を踏まえた上での[D3-2]の選択肢は以下の通りである。

- ・IaaS/ホスティングを利用した業務システムデータのプライマリストレージとして利用
- ・IaaS/ホスティングを利用した業務システムデータのバックアップストレージとして利用
- ・IaaS/ホスティングを利用した業務システムデータのアーカイブストレージとして利用
- ・社内に設置された業務システムデータのプライマリストレージとして利用
- ・社内に設置された業務システムデータのバックアップストレージとして利用
- ・社内に設置された業務システムデータのアーカイブストレージとして利用
- ・社内に設置されたファイルサーバのプライマリストレージとして利用
- ・社内に設置されたファイルサーバのバックアップストレージとして利用
- ・社内に設置されたファイルサーバのアーカイブストレージとして利用
- ・Webサイトなどで公開/配信するコンテンツを格納する場所として利用
- ・その他

D3-3.ストレージ基盤型サービスの今後の活用方針(いくつでも)

ストレージ基盤型サービスの利用意向の有無と利用する場合の用途について尋ねた設問である。選択肢は以下の通り。

- ・IaaS/ホスティングを利用した業務システムとの組み合わせで利用する
- ・社内に設置された業務システムデータを格納する目的で利用する
- ・社内に設置されたファイルサーバを補完する目的で利用する
- ・Webサイトなどで公開/配信するコンテンツを格納する目的で利用する
- ・その他
- ・今後も利用する予定はない
- ・現時点では判断できない

D3-4.ファイルサーバ型サービスの活用状況(いくつでも)

既に活用中のオンラインストレージサービスのうち、ファイルサーバ型サービスの詳細な活用状況を尋ねた設問である。選択肢は以下の通りである。

<<個人向けサービスに関する項目>>

- ・社員が個人向けサービスを業務利用しているが、その状況を管理/統制できていない
- ・社員が個人向けサービスを業務利用しており、その状況を管理/統制できている

<<法人向けサービスに関する項目>>

- ・企業として法人向けサービスを業務利用し、個人用サービスは禁止している
- ・企業として法人向けサービスを業務利用し、個人用サービスも許可している

<<その他>>

- ・その他
- ・状況を全く把握できていない

D3-5.ファイルサーバ型サービスの今後の活用方針(いくつでも)

ファイルサーバ型サービスの利用意向の有無、および利用する場合の用途について尋ねた設問である。選択肢は以下の通りである。

- ・対象となる部署を指定した上で、社員による個人向けサービスの業務利用を認める
- ・対象サービスを指定した上で、社員による個人向けサービスの業務利用を認める
- ・特に制限/条件を設けず、社員による個人向けサービスの業務利用を認める
- ・個人向けサービスから業務利用を始め、必要があれば法人向けに移行する
- ・最初から法人向けサービスの業務利用のみに限定する
- ・社員による個人向けサービスの業務利用は禁止する
- ・その他
- ・今後も利用する予定はない
- ・現時点では判断できない

D3-6.ファイルサーバ型サービスの活用における課題(いくつでも)

ファイルサーバ型サービスを活用する上で障壁になると考えられる事柄を尋ねた設問である。管理/運用に関する項目(ユーザや端末毎にアクセス権を細かく設定できない、ユーザをグループ分けできないなど)、機能に関する項目(ファイルの中身を検索できない、同期するファイルを個別指定できない、ファイルの作成/更新を自動で通知できない、など)、社外での利用に関連する項目(スマートデバイスからファイルを参照または作成/編集できないなど)といった16項目におよぶ様々な観点からの選択肢を網羅している。

D3-7.ファイルサーバ型サービスの新規導入や更新につながるニーズ(いくつでも)

「この機能や特徴を備えたファイルサーバ型サービスがあれば、新規導入や更新をしても良い」と考えられる項目を尋ねた結果である。選択肢は以下の通り。(実際の調査レポートには各選択肢の内容に関する詳しい説明も記載されている)

<<管理/運用や機能に関する項目>>

- ・ユーザ別アクセス権管理機能
- ・端末別アクセス権管理機能
- ・文書自動変換機能
- ・バージョン管理機能
- ・ファイル照合機能
- ・タスク管理機能
- ・全文検索機能
- ・更新通知機能
- ・部分同期機能
- ・データ移行機能
- ・複数サービス併用機能

<<容量や性能に関する項目>>

- ・ディスク容量の増設
- ・アクセス性能の強化
- ・クラウド連携機能
- ・データ圧縮機能

設問項目 (6/6)

<<社外での利用などに関する項目>> [D3-7]の選択肢の続き

- ・リモートアクセス機能
- ・スマートデバイス対応
- ・Webブラウザ編集機能
- ・ゲストアクセス機能
- ・リモートワイプ機能

D3-8.ファイルサーバ型サービスで必要と考える平均ディスク容量/ユーザ

設問[D3-7]で選んだニーズを全て満たしたファイルサーバ型サービスがあった場合、ユーザ1名当たりで必要と考える平均ディスク容量(GB)を尋ねる設問である。選択肢は以下の通り。

- ・100GB未満
- ・100GB以上～200GB未満
- ・200GB以上～300GB未満
- ・300GB以上～500GB未満
- ・500GB以上～1TB未満
- ・1TB以上～3TB未満
- ・3TB以上～5TB未満
- ・5TB以上～10TB未満
- ・10TB以上
- ・無制限であることが望ましい
- ・現時点では判断できない

D3-9.ファイルサーバ型サービスに拠出可能な月額利用費(単位:円/ユーザ)

設問[D3-7]で選んだニーズを全て満たしたファイルサーバ型サービスがあった場合、ユーザ1名当たりで拠出可能な月額利用費を尋ねる数値記入式の設問である。ここでの『月額利用費』には以下が含まれる。

*ファイルサーバ型サービス業者に支払う月額の利用費

*サービスの利用に際して社外に月額で支払っている保守/サポート費用(社内人材の稼働は除く)

本レポートの「分析サマリ」では33ページに渡り、中堅・中小企業におけるストレージ活用実態の重要ポイントなどを調査データを交えて解説しています。以下のレポート試読版では「分析サマリ」の一部を紹介しています。

2015年版 中堅・中小企業におけるストレージ環境の実態と展望レポート 分析サマリ

本レポートは中堅・中小企業を対象として実施したストレージ環境に関する調査結果をまとめたものである。

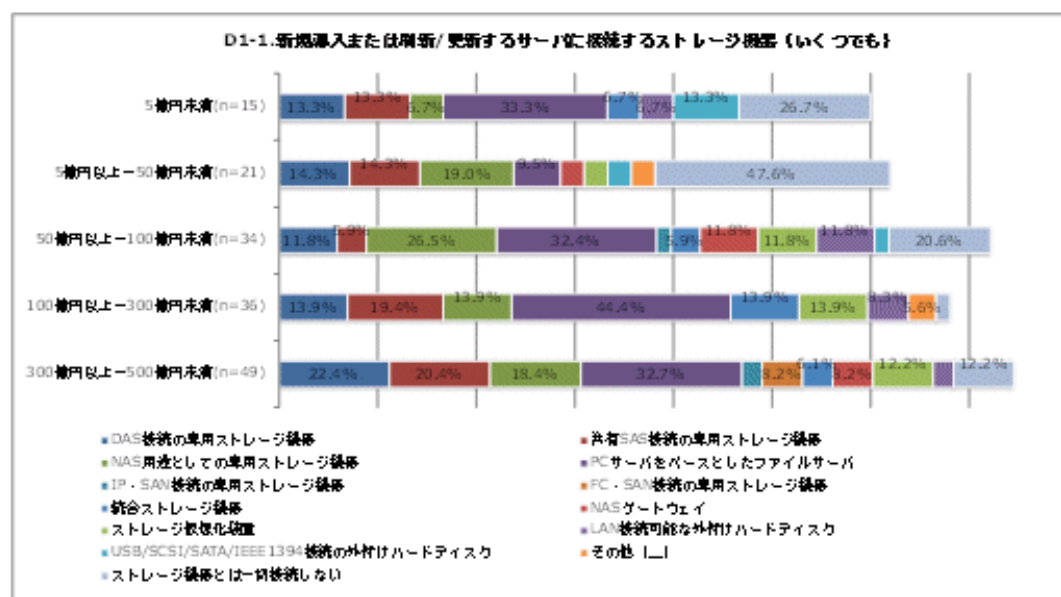
このドキュメントでは本レポートの集計データのうち、重要なポイントに関する分析の詳細について述べている。

1. D1 系列設問（新規導入または刷新/更新するサーバに接続するストレージ機器）における重要ポイント

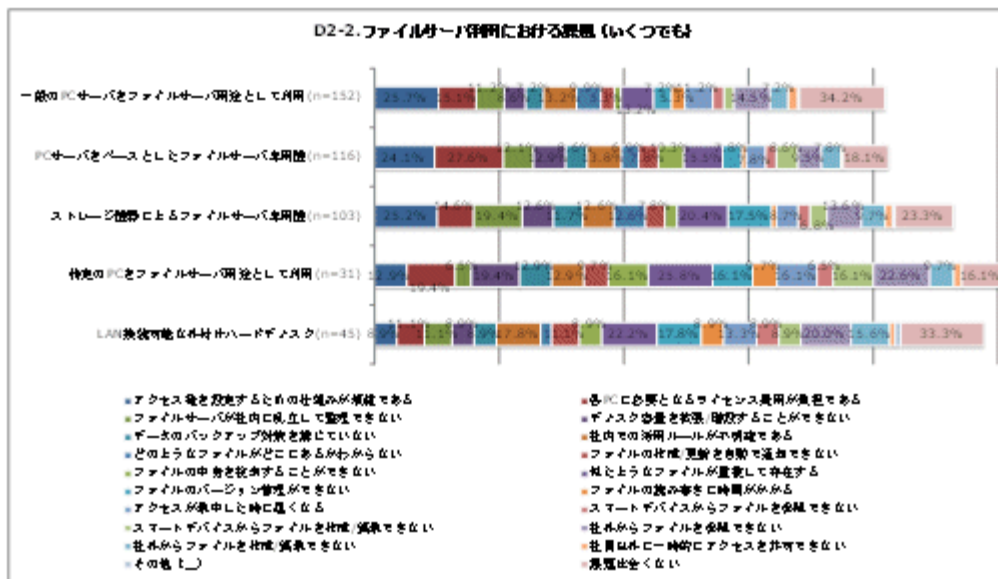
本章では今後一年以内に新規導入または刷新/更新するサーバ（サーバハードウェアを購入する形態）と何らかの形で接続するストレージ機器について尋ねた結果を見ていくことにする。

【ストレージ機器の形態】

以下のグラフは新規導入または刷新/更新するサーバと接続するストレージ機器の有無とその形態について尋ねた結果を年商別に集計したものである。



本レポートでは「業務システムにおけるサーバ接続ストレージ」「ファイルサーバ」「オンラインストレージサービス」といった中堅・中小企業においても比較的ニーズの高い3つの主要なストレージ形態のそれぞれについて詳しい集計/分析を行っています。以下は「ファイルサーバ」の活用実態に関する分析サマリの一部を抜粋したものです。ファイルサーバの利用状況別に現状の課題を尋ね、メーカー/販売/Slrがストレージ活用提案を行う際の提言事項をデータに基づいて述べています。



「一般の PC サーバをファイルサーバ用途として利用」、「特定の PC をファイルサーバ用途として利用」、「LAN 接続可能な外付けハードディスク」の3つのケースにおいて、ファイルサーバ専用機へのステップアップにつなげるための課題ポイントを順に見ていく。

A. 一般の PC サーバをファイルサーバ用途として利用

本来であれば、A.における「各 PC に必要となるライセンス費用が負担である」の回答割合は「PC サーバをベースとしたファイルサーバ専用機」(Windows Storage Server を搭載し、CAL が不要であるファイルサーバ機器など)よりも高いはずである。だが、実際は逆の状況であり、A.での回答割合が 15.1%、「PC サーバをベースとしたファイルサーバ専用機」での回答割合が 27.5%となっている。つまり、PC 側に必要なライセンスについて正しい理解と実践を行えているユーザ企業は「PC サーバをベースとしたファイルサーバ専用機」を選ぶが、そうではないユーザ企業が A.を選ぶ状態になっていると考えられる。A.のユーザ企業では「課題は全くない」の回答割合も 34.2%と高く、課題解決を起点としたステップアップを訴求することは容易ではない。この点の解決策については次章で触れることにする。

B. 特定の PC をファイルサーバ用途として利用

B.においては以下のような課題が比較的多く挙げられている。

- ・「ディスク容量を拡張/増設することができない」(19.4%)
- ・「ファイルの中身を参照することができない」(16.1%)
- ・「似たようなファイルが重複して存在する」(25.8%)
- ・「スマートデバイスからファイルを作成/編集できない」(16.1%)
- ・「社外からファイルを参照できない」(22.6%)

レポート試読版4(「質問間クロス集計データ」)

「設問項目」に掲載した設問結果を他の設問結果を軸として集計したものが、「質問間クロス集計データ」です。主要分析軸集計データと同様にMicrosoft Excel形式で同梱されています。

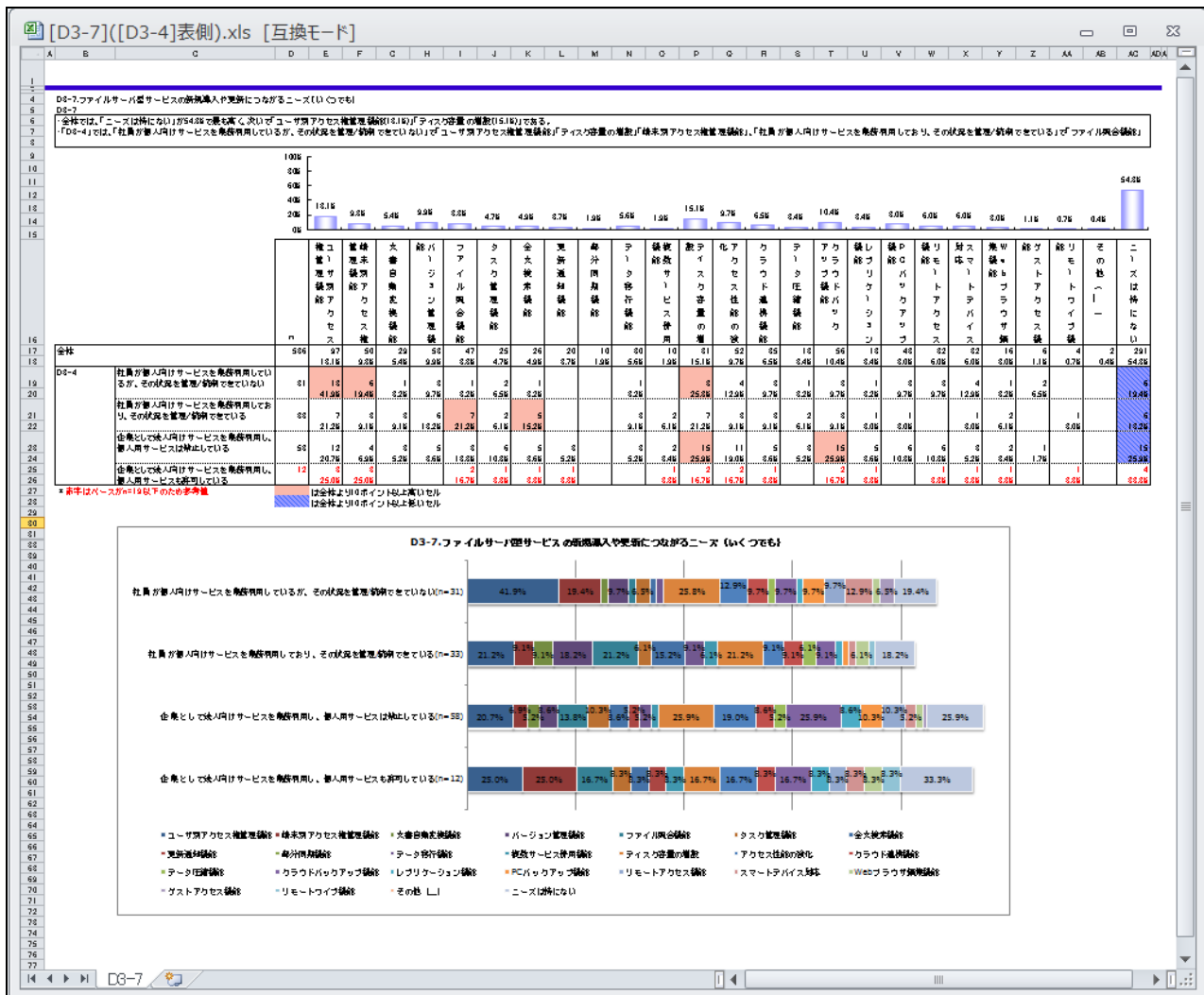
以下の試読版に掲載されているのは、設問D3-4(ファイルサーバ型サービスの活用状況)と設問D3-7(ファイルサーバ型サービスの新規導入や更新につながるニーズ)の関連を知るための質問間クロス集計データの例です。

ファイルサーバ型のオンラインストレージサービスの活用状況には「社員が個人向けサービスを業務利用しているが、その状況を管理/統制できていない」(※1)「企業として法人向けサービスを業務利用し、個人用サービスは禁止している」(※2)などといった様々な状況が考えられます。ソリューションを提供するIT企業としては※1の状況にあるユーザ企業がサービスに求める機能や特徴を把握し、それを自社が提案するサービスに取り込むことによって※2の状況へとステップアップさせることが重要となってきます。

そのためには設問D3-4の選択肢毎に設問D3-7を回答結果を集計したデータを確認するのが有効です。そのようにして、集計した結果が以下となります。画面の左上部に記載されたファイル名は『[D3-7]([D3-4]表側).xls』となっています。このファイル名は設問D3-4を軸としてD3-7の結果を集計したものであることを表しています。(設問D3-4は複数回答設問であるため、各選択肢を単一で回答したサンプルに絞って集計軸として用いています)

このように本レポート内には複数の設問同士を互いに集計した結果が数多く含まれ、それらを見ることによってストレージ活用実態をより深く把握するための様々な知見を得ることができます。

個々のシートには画面上部に軸を設定しない状態の縦帯グラフ、画面中央には特定の設問を軸として設定した集計結果の数表データ、画面下部にはその数表データを横帯グラフで表したものが掲載されるといった書式になっています。



本レポートの価格とご購入のご案内

【価格】180,000円(税別)

【媒体】CD-ROM(分析サマリ: PDF形式、集計データ: Microsoft Excel形式)

【発刊日】2015年7月13日

下記より本レポートのダイジェスト(サンプル)をご覧ください

サーバ接続ストレージの活用実態:

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015storage_usr_rel1.pdf

オンラインストレージサービスの活用実態:

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015storage_usr_rel2.pdf

ファイルサーバの活用実態:

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015storage_usr_rel3.pdf

お申込み方法:

ホームページ(<http://www.norkresearch.co.jp>)から、またはinform@norkresearch.co.jp宛にメールにてご連絡ください

その他のレポート最新刊のご案内

「2015年版 中堅・中小企業におけるIT投資の実態と展望レポート」

クラウドやスマートデバイスといった新たな潮流を受けて、中堅・中小企業のIT投資はどのように変わっていくのか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rep.pdf

ダイジェスト(サンプル):

ビッグデータ /ウェアラブル等の投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel1.pdf

基幹系システムの投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel2.pdf

情報系・顧客管理系システムの投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel3.pdf

運用管理系システムの投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel4.pdf

スマートデバイス関連の投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel5.pdf

PC関連の投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel6.pdf

ネットワーク関連の投資動向

http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015IT_usr_rel7.pdf

価格: 180,000円(税別)

サーバ関連レポート3部作

各冊**180,000円(税別)**、2冊同時購入時:**240,000円(税別)**、3冊同時購入時:**380,000円(税別)**

「2015年版 中堅・中小におけるサーバ/IaaS選定の実態と展望レポート」

IaaSベンダ間の競争が激しさを増す中、中堅・中小企業におけるクラウドへの移行はどこまで進んでいるのか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rep1.pdf

ダイジェスト(サンプル): http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rel1.pdf

「2015年版 中堅・中小におけるサーバ仮想化活用の実態と展望レポート」

中堅・中小企業におけるサーバ仮想化活用をさらに進めるために必要となる次の一手とは何か?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rep2.pdf

ダイジェスト(サンプル): http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rel2.pdf

「2015年版 中堅・中小におけるサーバ導入/保守の実態と展望レポート」

中堅・中小企業はサーバの調達先をどのように選定するのか? 導入/運用における作業は誰が担っているのか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rep3.pdf

ダイジェスト(サンプル): http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2015server_usr_rel3.pdf

本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

本ドキュメントに関するお問い合わせ

NORKRESEARCH

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高

東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705

TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692

inform@norkresearch.co.jp

www.norkresearch.co.jp